

【事例紹介】

ドイツ留学と DAAD 奨学金

Study in Germany and DAAD scholarships

ドイツ学術交流会 日本人向け奨学金プログラム担当 久留島 義信

KURUSHIMA Yoshinobu

(Scholarship Program Coordinator for Japanese Students, German Academic Exchange Service)

キーワード：ドイツ留学、奨学金

はじめに

世界的に見て、近年ドイツへの留学生数は増加傾向にある。その大きな要因のひとつとなっているのが、経済的な負担の低さである。ドイツの大学は主に各州によって管轄されており、2017年にバーデン=ヴュルテンベルク州がEU圏外からの外国人留学生に対して授業料支払いを義務化したことを除き、その他の州では基本的に授業料と銘打った費用は2019年現在、徴収されていない。EU圏外の外国人から授業料を徴収しない国は、英語圏と比べて相対的に学費の安い欧州においても珍しい存在となりつつある。また、ドイツの大学国際化を目指す上で、英語によるプログラムの充実を図った結果、現在では多くの課程で英語による学位取得プログラムが提供されている。そのため、相対的に膨大な費用が掛かる英語圏への留学の代替国として、その高い教育レベルで元来より定評のあったドイツの大学へ留学を目指す学生が増加傾向にあると推測することもできる。

このような背景において、我々ドイツ学術交流会（Deutscher Akademischer Austauschdienst）（以下、「DAAD」という。）がドイツ留学を目指す学生に対してどのような支援を行っているのか、以下、紹介をしていきたい。

1. DAAD について

1925年に設立されたDAADはドイツの大学と学生組織が共同で運営する団体で、本部をドイツのボンに置く。他にもドイツ国内にベルリン首都支局、海外事務所15ヶ国、またインフォメーションセンターを世界57都市に設けている。活動の主な拠出金はドイツ連邦外務省、教育・研究省、EU等の公的資金である。DAADは①優秀な人材に対する奨学金の支給、②学術協力に関する専門知識、③国際化のための機構、という主に3つの戦略的分野を設けて活動を行っている。本稿では主に①について後

半部で述べていきたい。

2. ドイツ留学について

冒頭に述べたように、世界的なドイツ留学への熱は年々高まりつつある。UNESCO の統計¹によると、2016年にドイツは、米国・英国・豪州に次いで人気の留学先であり、非英語圏においては最も選ばれた国であった。また、DAAD がドイツ政府と共に掲げた2020年までに外国人留学生数を35万人にまで増やすという計画は、2016/17年度の冬学期時点で既に達成することができた(358,895人)。さらに、ドイツにおける外国人留学生数は2000年代中盤に一時伸び悩む傾向が見られたが、2009年以降は常に上昇し続けている(グラフ1参照)。2018年の留学生数は374,583人であり、ドイツ連邦統計局によると2019年には39万人を超える見通しとなっている。このことから、今後数年内に外国人留学生数は40万人を超えることが確実であると推測される。

世界的に、留学をする学生数は上昇傾向にあるが、その中でもドイツが安定して外国からの留学生数を増やしている理由としては幾つか挙げることができる。まず、初めに述べたように、ドイツ留学は主要な英語圏への留学と比較し、経済的な負担を抑えることが可能である。学籍登録をする際に学期ごとに共済費(約100~350ユーロ、各大学で異なる)というものが発生するが、授業料に関しては私立大学やバーデン=ヴュルテンベルク州の大学(1学期ごとに1,500ユーロ)、また一部の例外を除き、基本的に徴収されない。共済費について補足をする、その支払いと引き換えに、殆どの大学でSemesterticketという日本でいう公共交通機関乗り放題定期券のようなものが発行されるため、地域内の交通費は基本的に掛かることはない。また、その他の生活費に関しても日本と比べて決して高くはなく、都市によっても異なるが、家賃等も含めた平均的なひと月の生活費は819ユーロである。経済的な負担によって留学を諦めてしまっていた学生にとって、ドイツが場合によってはその受け皿となる可能性もある。

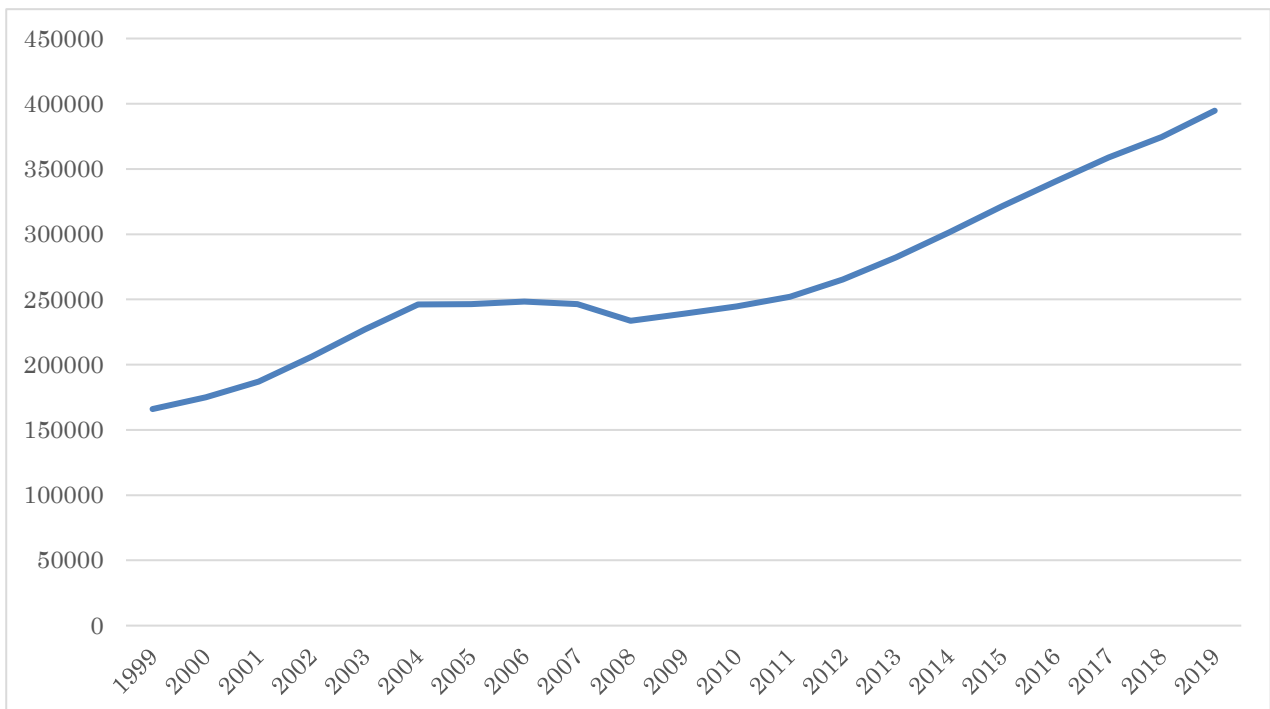
また、経済的な面だけでなく、ドイツの大学の教育・研究の質の高さもドイツが留学先として選ばれる理由のひとつである。英国の教育専門誌Times Higher Education (THE) が毎年発表している世界の大学ランキングによると、2019年はTop100にドイツの大学が8校、Top200まで含めると計23校もランクインしている(ちなみに日本からは東京大学と京都大学の2校がTop100にランクイン)。なお、ドイツの大学はTHEランキングの常連となっており、ここ数年では20校以上が常に上位にランクインしており、客観的に見てそのレベルの高さをうかがうことができる。実際にドイツに留学をしている外国人を対象に2016年に行われた調査では、ドイツを留学先と選んだ理由として「教育の質の高さ」や「国際的に名高い大学」、「良い学習環境」などが主に挙げられている。

¹ DAAD, Wissenschaft weltoffen 2019, p.18, http://www.wissenschaftweltoffen.de/publikation/wiwe_2019_verlinkt.pdf#search=%27DAAD+Wissenschaft+weltoffen+2019%27

さらに、近年の英語による学位取得プログラムの充実により、ドイツ語を学習していない学生であってもドイツ留学が身近なものへとなりつつある。とりわけ修士課程においては、文系・理系を問わず多くのプログラムが提供されており、現在では1500を超える課程で英語だけで学位取得が可能となっている。なお DAAD では、英語で学位取得可能な課程も含め、自分に合ったドイツの大学での課程を検索できるデータベースをホームページで提供している。興味のある方は是非ご活用いただきたい²。

他にも、ドイツは9ヶ国に陸続きで囲まれており、欧州の中心に位置しているという地理的な利点や、ドイツ語という欧州で最も話者の多い言語（約1億人）を留学中に習得できるといった点などを含め、ドイツには留学を志す学生をひきつける魅力が多く存在する。

【グラフ1：ドイツの大学における外国人留学生数の推移】



出典：Statistisches Bundesamt, 2019

3. DAAD 奨学金プログラム

奨学金の支給は DAAD の主な活動分野のひとつである。助成活動を通じて、将来を担う専門家やリーダーとなりうる学生・研究者に、世界最高レベルの大学や研究機関での研鑽の機会を提供している。DAAD の奨学生には、留学経験を通じてドイツという国に対して特別な親近感を持ってもらい、そして留学中に持続可能な国際的ネットワークを構築することが期待されている。

DAAD は昨年、145,188 人（ドイツ人：81,508 人、外国人：63,680 人）に対して助成を行い、1950 年

² <https://www.daad.de/deutschland/studienangebote/studiengang/en/>

からの統計でこれまでに240万人（ドイツ人：約140万人、外国人：約100万人）に上る。なお、日本人の最初のDAAD奨学生は1933年から1935年までベルリン大学（現フンボルト大学）に留学をしていた日本画家の東山魁夷であり、彼を含め、第二次世界大戦前にはすでに36名の日本人奨学生がDAADの支援を受けてドイツへ留学をしていたことになる。それから80年余りが経過し、これまでに多くの日本人がDAADの支援を受けドイツへの滞在を実現した。なお、昨年の日本人受給者の数は、個人応募およびプロジェクト助成も含めると135人であった。個人応募の奨学金においては、とりわけ修士課程での助成を希望する学生の数が目立った。これまではドイツ語での留学希望者が多かったのに対し、近年では上記に述べたドイツの大学における英語プログラムの充実もあり、英語での留学を希望する学生数が応募者の半数以上を占めるようになっている。また、応募者数もここ数年は増加傾向にあり、このことから学生の間でドイツ留学に対する関心が高まってきていると感じることができる。

以下、DAADが大学生を対象に提供する個人応募の奨学金を紹介したい。奨学金の種類は、学部生が応募できる短期のものから、ドイツで修士以上の学位取得を目指す長期のプログラムまで幅広く提供されている。なお、DAAD奨学金は給付型のため、返済は不要である。

①留学奨学金（修士）

対象

ドイツまたは日本で修士号取得を目指す者

支給期間

10～24ヶ月

支給内容

月額850ユーロ、航空券補助、健康保険料、研究補助費、家賃補助、ドイツ語研修補助費

応募締切

毎年10月上旬ごろ（支給開始は翌年の10月）

審査方法

書類審査および面接

②芸術奨学金（修士）

対象

ドイツまたは日本で芸術分野（音楽、美術、演劇、建築、映像など）での修士号取得を目指す者

支給期間

10～24 ヶ月

支給内容

月額 850 ユーロ、航空券補助、健康保険料、研究補助費、家賃補助、ドイツ語研修補助費

応募締切

プログラムによって異なる（支給開始は翌年の10月）

審査方法

書類審査

③研究奨学金（博士）

対象

ドイツまたは日本で博士号取得を目指す者

支給期間

7～48 ヶ月

支給内容

月額 1,200 ユーロ、航空券補助、健康保険料、研究補助費、家賃補助、ドイツ語研修補助費

応募締切

毎年10月上旬（支給開始は翌年の10月）

審査方法

書類審査および面接

④ドイツ語研修奨学金（学士～博士）

対象

支給開始の時点で日本の大学の学部3年生以上に在籍する学生で、春または夏にドイツの大学で行われるドイツ語コースに参加する者

支給期間

1 ヶ月

支給内容

950 ユーロ、航空券補助、健康保険料

応募締切

春講座：毎年11月上旬（支給は翌年2～3月の間の1ヶ月）

夏講座：毎年12月上旬（支給は翌年6～11月の間の1ヶ月）

審査方法

書類審査

ドイツの大学の多くの修士課程は2年間となっているため、上記の奨学金でその期間を全てカバーすることが可能である。また、ドイツで博士号を取得する場合は最長4年間の手厚い支援が行われる。また、短期のドイツ語研修奨学金を利用して、長期留学前にドイツという国を知っていただくのも良いかもしれない。なお、募集要項は毎年内容が変わるため、奨学金の詳細についてはDAADのホームページを参照し、常に最新情報を確認していただきたい。<https://www.daad.jp/scholarships>

奨学生は帰国後、DAADの同窓会である「DAAD友の会」に所属することができる。所属会員は現在1000名を超えており、各地で行われる定期的な会合の場で同窓生同士の交流を深め、更なるネットワークの構築が行われている。さらには、DAAD同窓生が応募できる再招待奨学金といったプログラムもあり、帰国後も様々な機会での支援の場が提供されている。

おわりに

ドイツの大学国際化推進により、これまでドイツを留学先の対象として認識していなかった層（英語圏留学希望者、非ドイツ語学習者）にとって、選択肢の枠が広がりつつある。非英語圏の中で最も多くの留学生を抱える国として、今後もその数は増加すると推測される。DAADは今回紹介した個人応募の奨学金制度だけでなく、日独双方の大学交流を目的としたグループ研修旅行の助成や、日独の学生や研究者の相互派遣を支援する研究プロジェクト助成など、様々な側面から日本人のドイツ留学支援を行っている。学生や研究者の状況に応じて各プログラムを是非活用していただきたい。

【主要参考文献等】

1) DAAD, Wissenschaft weltoffen 2019

2) Statistisches Bundesamt: (2019年10月15日にアクセス)

https://www.destatis.de/DE/Themen/Gesellschaft-Umwelt/Bildung-Forschung-Kultur/Hochschulen/_inhalt.html